

10月号

平成3年10月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

ぎゅっとむすんだ唇
握りしめたスコップ
君は小さな肩をふるわせている

おおつぶの涙が ぼろり

自分の思いが 言葉にならず

大きく見開いた眼から

ぼろり

また

ぼろり

それでも

自分をくすすまいと

小さな全身に力を込める

いいんだよ

泣いていいんだよ

甘えていいんだよ

腕の中で君がとけていく

ぬくもりが つたわる

「もういいの」

「うん」

小さな後ろ姿の君は

スコップを握り直し

もう一度 友達のところへ戻っていく

いつでもおいで

また来ていいんだよ

〈涙〉

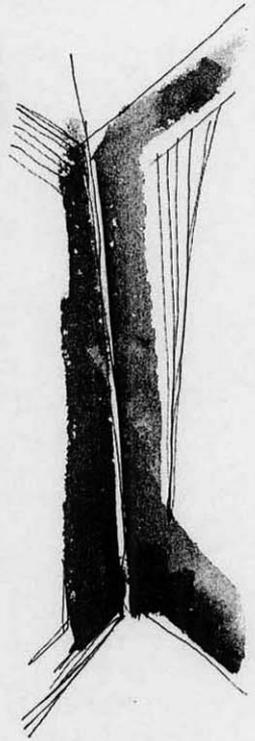


(先生見てえ、おかあさんよ——梅園幼)

— 教育随想 —

阪神ファンとPTA

前岡崎市PTA連絡協議会会長 太田吉昭



セブン・イレブン亭主とまではいかににしても、恥を承知で私の日常の一端を紹介してみようと思います。

まず、新聞の読み方は、最初にスポーツ欄（特に阪神が勝っていれば隅々まで熟読：最近この機会がとみに少なくなつたので残念、そして、経済・政治・社会面へと進み、最後に時間があれば文化・教養欄というのが不変のパターンです。

家族と共に朝食をとることは皆無に近く、夕食は週末を中心に月数回。特にこれといった子育て方針もなく、ましてや他人の前で堂々と述べるだけの教育論を持たない私が、小学校のPTA役員どころか、当岡崎市や三河、愛知県のパ連会長までやってしまったこと自体、私の人生にとつては驚天動地というか青天の霹靂というか、まさに「やけくそ」の数年間でありました。今述べたことは実に本音であつて、時に胡散臭く聞こえる日本

人特有の謙譲の美徳でもなんでもありません。

この「やけくそPTA」の渦中にあつて、いつも自分に言い聞かせてきた言葉は、「子供を持つ親だけでも、自分が教育の素人（PTA）だという事を認めよう。何者にも束縛されず、自分の本音で自由に発言し、行動しよう」ということでした。

さて、冒頭からなぜこんなことを書いたかといえますと、「教育と子供のことを語り、実践する」という建前の活動を深く知り、考えれば考えるほど、私自身の生き方の問題となつてはね返ってきたからです。

独断をお許しただけなら、子供のことを考える自主独立の民主団体、というPTAの定義を改めて見直す時、激変する現代社会の政治・経済・文化の潮流を見極めるだけでも、きわめて困難

な状況下にあつては、私たち、大人（親）自体の自己変革なしに、教育の未来はあり得ないのではないかと思うのです。

より具体的に言えば、PTAの視点だけ取り上げてみても、「校則」「しつけ」「登校拒否」「体罰」「非行」「受験戦争」などのテーマに取り組む時、では自分は親として、社会人として、あるいは一個の人間としてどう生きているのか？ 自立した、または自立しようとしている人間として明確な指針を持っているのかという問いかけが返ってきたのです。

「このころの時代としての二十一世紀」という言葉が好きです。日本が経済大国になり、世界の中で重要な位置を占め、また、責任も期待されるまでになつた原因の一つに、高い教育水準があげられましたが、一方、人間形成、つまり心の教育がこの犠牲になつてしまったことも否定できない事実です。我が国は西欧のような市民革命もなければ、米国のように独立戦争も経験していません。こうした風土、民族性のもとの戦後民主教育が、人間の自由と責任、個人の権利と義務に關して、果たして効果的であつたかどうか疑問に感じています。そうした意味でアイデンティティという言葉は、我々日本人に大変なじみにくい概念かと思えますが、未来を志向する教育は、開かれた世界へ向かつてこのアイデンティティを確立する過程で、互いに尊重し、信頼し合う個性豊かな社会を築きあげることではないでしょうか。（おたよしあき）

羅針盤

自作教材の活用

視聴覚指導員

高木 和広



中学三年生は、社会科で地方自治を学習する。この地方自治の学習は、生徒の生活とかかわりのある内容である。しかし、地方自治に対する生徒の意識は高いとは言いがたい。したがって、地方自治の学習を進める上においては、生徒とかかわりのある身近な問題としての意識づけをさせる必要がある。

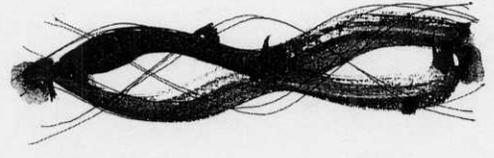
K先生の地方自治での授業である。前に地方自治のしくみなどの概要をとらえさせている。この時間は、K先生の自作ビデオの視聴から始まった。

学区の、あるごみ収集場。そこへごみ収集車がやってくる。そして、そこに置かれてあるごみを車に積み込んでいく。一つの粗大ごみがクローズアップされる。突然その粗大ごみの中から人が出てくる。K先生であり、一言。

「このごみはどこへ行くのでしょうか。」テレビのスイッチが切られる。わずかな三分ほどの自作ビデオであるが、文字通

ふるさとシリーズ

この人に聞く



岡崎野鳥の会

織田 重己 氏

近頃、「バードウォッチング」という言葉をよく耳にする。自然に親しむ中で野鳥を観察するのである。このバードウォッチングが今、この岡崎でも静かなブームを呼んでいる。

八月のある日曜日朝、稲熊町の織田歯科医院の先生でもあり、「岡崎野鳥の会」の世話役でもある織田重己さん宅を訪ねた。

バードウォッチングに出かけた幡豆の海岸から、ちようどお帰りになったところであった。

いつごろ、どんなきつかけで野鳥に関

心を持たれるようになったのかをお尋ねすると、

「小さいころから鳥は好きでしたが、中学二年のとき、父親に双眼鏡を買ってもらったのも一つのきっかけです。しかし、本格的に取り組むようになったのは、大学三年生のとき、東京の高尾山の探鳥会に参加してからで、野鳥がこんなにも多くいるのを知り、びつくりしたのが大きなきっかけになったように思います。」

と話してくださいました。

「岡崎野鳥の会」創設の経緯などについてお伺いする。

「今までは、岡崎・豊田の人たちを中心に『西三河野鳥の会』という立派な会が十五年以上前からありました。その会はレベルが高く、素人にはやや近寄り難いものであったので、もう少し気軽に誰でも参加できる探鳥会を中心にした会を作り、バードウォッチャーを増やしてはどうかという声が出て来ました。そんなことから、平成二年一月に『岡崎野鳥の会』が誕生したというわけです。」

会の世話は約二十名の幹事によって行われ、現在、三百名余の会員がいる。東公園や竜美丘公園などで毎月六回の定例探鳥会を行い、多くの幅広い層の会員が参加しているとのことであった。

また、「岡崎野鳥の会」では、会創設以来「はくせきまい」という月刊の会報を発行している。探鳥会に参加した子供

や大人の感想、「探鳥会で楽しませてくれた鳥と人」という探鳥会ごとの参加者名簿や鳥の種類、岡崎公園鳥類目録等々、非常にバラエティーに富んだ楽しい読物である。こういう地道な取り組みが、会を盛り上げていく大きな要因にもなっているように思った。

「岡崎野鳥の会」の今後の夢をお聞きする。

「最終的な私たちの願いは、自然保護です。野鳥は自然の豊かさを示すものさしといわれ、多くの野鳥がさえずり、子育てをする環境こそ豊かな自然といえます。こうした豊かな自然をいつまでも少しでも多く残していけるように努力したいと思えます。」

K先生は、生徒の反応を確かめつつ、もう一本のビデオを視聴させた。市で作ったものであり、中央クリーンセンターを取り上げている。その中で、ごみ収集車によって運ばれてきたごみが処理されていく様子などが描かれている。また、中央クリーンセンターの必要性も取り上げている。中央クリーンセンター建設の必要性などについての方向へ話し合いが進んだところで、次のような問題を設定した。

「中央クリーンセンター建設には、どんな準備が必要だったのだろう。」この問題から、まず、市としての建設へのかかわりへと学習が進められていった。そして、そのあとは、住民の側からのかかわりにも目を向けていく授業計画になっている。

社会科の学習では、資料が重要なことは言うまでもない。この学習での資料は地方自治の学習を、自分たちの問題としてとらえさせたところに意味がある。自作教材の持つ特性を見事に生かしていた。



氏名 おだ しげみ
生年月日 昭和三十四年二月二十二日
住所 岡崎市稲熊町八丁目四十番地

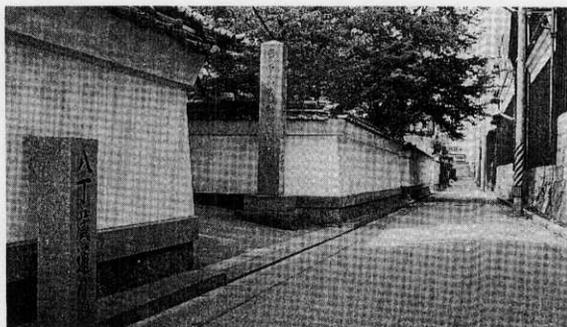


▲ 石の車道（鴨田町） 総御影石造りの見事な車道。大樹寺のシルエットとの調和が美しい。

石都として知られる岡崎は、古くから石の道標などがあり、月報の「点」や「泉」で数多く紹介されてきているが、最近になって街角のあちこちで、新しい石の建造物や道標が見られるようになってきた。

今回、道のかたわらにひっそりと置かれている新しい石の道標や暗れがましく自分を主張している街中のモニュメントなど主なものを特集し、変わりつつある岡崎の表情をとらえてみた。

道標は、昭和五十九年から市が設置を始めたもので、現在、市内四十六か所に置かれている。これらは、岡崎の



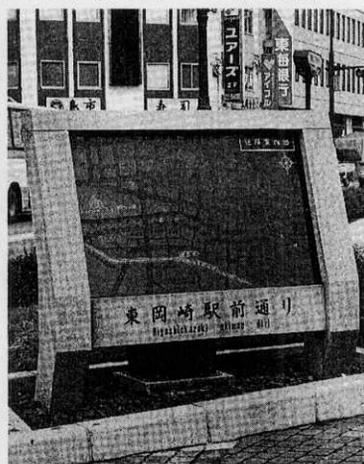
▲ 道標「八丁蔵通り」（八帖往還通）
白壁とマッチして落ち着いた雰囲気を出している石柱式道標。



▲ 道標「市民会館通り」（六供町）
道路標示として最もよく見かけるアーム式の道標。



▲ 道標「竹千代通り」（康生町）
この通りにはほとんどの種類の道標がある。なかでも、屏風式の道標は珍しい。



▲ 案内板「東岡崎駅前通り」（明大寺町）
市の中心部を黒御影に彫り込んだ石の都にふさわしい案内板。



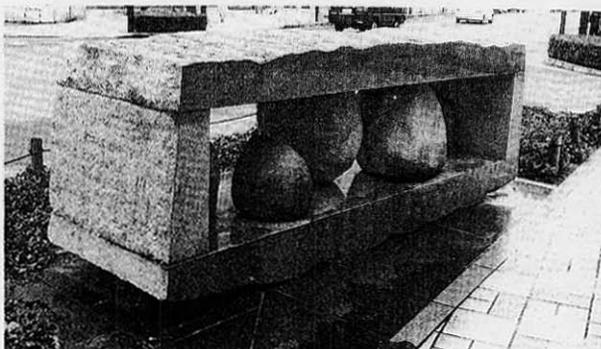
▲ 西岡崎駅の大時計塔 (昭和町)
総御影石造りの大時計塔。カラフルな石の組み合わせが美しい。



▲ 出合之像 (矢作町)
日吉丸と蜂須賀小六との出合いの像。岡崎の西の玄関を感じさせる。



▲ 石のオブジェボール (康生通)
色彩豊かな石を組み合わせたボール。ベンチや灰皿などとセット。



▲ 石のオブジェ (康生通東)
矢作石工団地二十周年記念事業として、市に寄贈されたもの。



▲ 中央総合公園モニュメント (高隆寺町)
中央総合公園入口の、古代神殿趾を思わせる巨大な石の造形。

三つの石工団地「矢作石工団地」「稲熊石の公園団地」「石製品協同組合」によって制作された。

中央総合公園入口に聳える巨大な石のモニュメントや、籠田公園南の「石のオブジェ」のように、各種団体の寄贈による建造物もある。

ほとんどの石製品は、岡崎産の御影石を使用しているが、康生町バス停横「石のオブジェボール」は、輸入材を使用し、色の変化を演出している。

最近完成をみた大樹寺前の「石の車道」は、石都岡崎の新しい顔を示す一つの試みといえるのではないか。



▲ JR岡崎駅西口石のガード (羽根町)
自然石の上面のみを磨いた、野趣豊かな御影石のガード。



なかよしドッジ

梅園小 戸澤 剛

「ええっ、もう終わりなの？もつとやりたい。」
 男子も女子も埃にまみれた顔を上気させ、不満そうにかけよってくる。学級活動、「みんなでかんがえたドッジボールをしよう」の時間……。

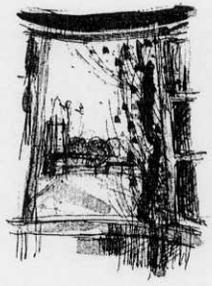
五、六年生しか担任したことのなかった私が、初めて三年生を受け持った。高学年に比べ、何でも先生、先生と近寄ってくる。反応もストレートで楽しい。しかし、子供同士は学級編成したばかりでもあり、少人数で固まり、放課の遊びもばらばら。とりあえず、みんなで遊べる

ドッジボールをしてみた。ゲームが終わると、
 「男の子のボールがいたくてこわい。」
 「男の子ばっか、ボールをとる。」
 「全然ぼくのところへボールがこんよ。」
 と、文句、文句、文句。
 「じゃあ、二回戦は、コートを四つ、ボールを四つ、男子は右手を使っってはいけないことにしよう。」
 と提案した。
 「ええっ。」
 という子供たちの反応。

「どこへ投げてもいいの？先生。左だけで受けるの？」
 そして二回戦がスタート。女子が急に活発になる。どんどん男子が当てられていく。
 「おもしろい。もつとやりたい。」
 「これがいい。」
 女子の意見。
 今度は、男子から不満続出。
 「左手だけじゃあ受けられないよ。」
 「ボールが多すぎる。後ろから当てられるといたい。」
 この日をきっかけにして、子供たちは自分たちでルールを工夫するようになってきた。学級

の合言葉は「みんななかよく」。
 ルールの話し合いでは、意外にも女子から活発に意見が出された。そして、三年四組独自のドッジボールができ上がった。
 待ちに待ったその日、
 「後ろ、後ろから来るよ。」
 「わあい、T君当てちゃった。」
 四つに分かれたチームで声をかけながら動き回る子供たち。受けたボールを女子に渡す男子。時間は、またたく間に過ぎていった。

私はこの四月に矢作幼稚園に新任としてやってきました。あれからも五か月が過ぎようとしています。思い返してみると色々なことがありました。



子らと共に

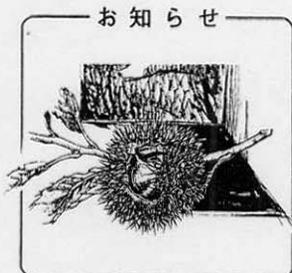
矢作幼 松田奈子

入園式の翌日から、新任研修が二日もあり、四月十日は初仕事の日でした。私は楽しみな気持ちと、不安な気持ち一杯で赤組の部屋に入って行きました。
 「わあ。幼稚園いやだあ。」
 と、下駄箱のところで泣いている子、遊びながら部屋を水浸しにしている子、友達とけんかをして泣いている子など色々な子がいました。私はある程度想像はしていましたが、それ以上だったため、不安が大きくなるばかりでした。みんなで集まって話を聞くことも苦痛な子が多く、私の話も聞き入れてもらえない有様でした。
 五月の下旬頃、少しずつ子供たちが落ち着き始めた時、ロッカーの前で一人立っているK君が目につくようになりました。私が話しかけても、K君は「うん」という返事をするだけです。みんなが一緒に遊んでいても、一人離れたところで見ているという状態でした。経験のない私は、どうしてよいかわからず、先輩の先生方の意見を参考にすることにしました。私は、K君が登園して来ると、K君の手を引いて砂場へ行き、砂遊びをしたり、みんなと一緒にリズム遊びをしたりしました。



すると、いつの間にか世話好きな女の子が、私は何を言ったわけでもないのですが、自然にK君のことに気づき、K君の手を引いて、一緒に遊んでくれるようになったのです。私は、このまま少し様子を見ていることにしました。だんだん男の子たちもK君に気づき、Y君とT君の二人が、K君と一緒に遊んでくれるようになりました。
 それからというものK君は、顔つきも変わり、最近では少ない会話ですが、自分から進んで話しかけてくるようになってきました。私は今、子供たちに感謝しています。この子たちと一緒に生活でき、色々なことを子供たちから教わり、共に成長していける私は幸いです。

お知らせ



矢作北中池田さん堂々と主張

少年の主張愛知県大会で優秀賞受賞

八月二十三日、足助町公民館

で、第十三回少年の主張愛知県大会が開催された。

主張作文の応募は、七万五千七百四十四点、出品校は二百五十五校で、この中から十三校(男子一名、女子十二名)が選ばれ

第八回NHK杯全国中学校放送コンテスト

常磐中 テレビ番組部門で優秀賞に輝く

八月三・四日、二十二日の三日間にわたって、第八回NHK杯全国中学校放送コンテストが東京新宿野村ホールで開かれた。その結果、テレビ番組部門で常磐中放送部制作の「日本列島・全員集合」が優秀賞に選ばれた。

この部門は、各地区大会を勝ち抜いた六十余点で、まず予選が行われ、この予選を通過した十二作品で最終審査が行われた。今回、優秀賞を獲得した常磐中の作品は、同校生徒の七割弱が生活する新興住宅地の滝団地にスポットをあてたものである。この団地の居住者は、半数以上が県外出身者で、言葉や習慣の違いがあるにもかかわらず、実に円滑な自治活動を行っている。この様子を克明に伝え、中学生

た。

本市代表の池田円さん(矢作北中三年)は、「福祉への第一歩」と題して、アルミカンのプルタブを二万個集めて、車椅子に替えようと自分が中心になり、家族ぐるみで集めていることを堂々と表情豊かに発表した。その

他の発表も、部活動でのこと、友の死や障害を持つ弟から学んだこと、ごみなどの環境問題やヘルパー支援など、身近な問題から社会問題に至るまで多彩であった。審査の結果、池田さんは優秀賞・足助町長賞に輝いた。

■第十六回岡崎市中学校児童生徒統計クラブコンクール
市長賞
上地小 五年 高妻 篤史
葵 中 三年 高柳 智美
加藤 由子
市議会議長賞
六北小 六年 酒井 大介
相馬 聖生
岩津中 二年 内田理恵子
教育委員会賞
上地小 六年 望月 哲哉
別所 直子
浅井 満芳
葵 中 一年 足立 恭子
学校賞
上地小学校 岩津中学校

朗読部門
優良賞 三年 真砂 恭子
入賞 三年 中根 麻美
一年 鮫島美恵
■平成三年度県緑化コンクール
八月二十七日、本年度の県緑化コンクールの入賞校が決定し、本市関係の学校が次のような好成績を収めた。
特選 県知事賞 矢作西小学校
入選 県知事賞 城 南小学校
県教委賞 梅 園小学校
県教委賞 東 海中学校
県教委賞 東 海中学校

第23回岡崎市中学校新入体育大会・水泳競技

	優勝	2位	3位
男	葵 中	南 中	矢作北中
女	矢作北中	矢作中	美 川 中

平成3年度児童・生徒緑化・愛鳥作品コンクール

◆緑化習字

小学校	県教育委員会賞	入選	中村 有希(竜谷)	青井 朋子(梅園)
小学校	県緑化推進委員長賞	鈴木 綾子(山中)	久留宮 梓(竜谷)	久留宮 梓(竜谷)
		平野 品子(上地)	本田 敦子(竜谷)	本田 敦子(竜谷)
		畔柳 瑞希(竜谷)	高柳 真弓(大門)	高柳 真弓(大門)
中日新聞社賞	小栗美智子(大門)	高柳 真弓(大門)	高柳 真弓(大門)	高柳 真弓(大門)
中学校	県緑化推進委員長賞	特選 新井 麻子(北)		
		入選 渡辺 晶子(六ツ美)		
		磯谷 幸佳(六ツ美)		
		杉浦 容子(北)	中根 清華(常磐)	中根 清華(常磐)
中日新聞社賞	酒井 智美(北)	有馬 静佳(北)	有馬 静佳(北)	有馬 静佳(北)

◆緑化・愛鳥ポスター

小学校	県緑化推進委員長賞	入選	内田 徹(矢北)	中根 啓樹(井田)
小学校	県教育委員会賞	大場 真愛(井田)	太田 浩代(井田)	太田 浩代(井田)
		鈴木美根子(井田)		

■全国中学校選抜体育大会

(軟式庭球)

・第五位 常磐中学校

(相撲)

・第三位 新香山中 田宮 啓司

(水泳 男子四百米メドレーリレー)

・第七位 矢作北中学校

■県吹奏楽コンクール

・金賞 竜美丘小学校

※十一月十日の全日本小学校

バンドフェスティバルに出場。

・金賞 六ツ美北部小学校

・銀賞 本宿小学校

■NHK合唱コンクール県大会

・銀賞 梅園小学校

■中部日本吹奏楽コンクール県大会

大会

(中学校小編成)

・優勝 甲山中学校

・準優勝 竜南中学校

(中学校大編成)

・優勝 竜海中学校

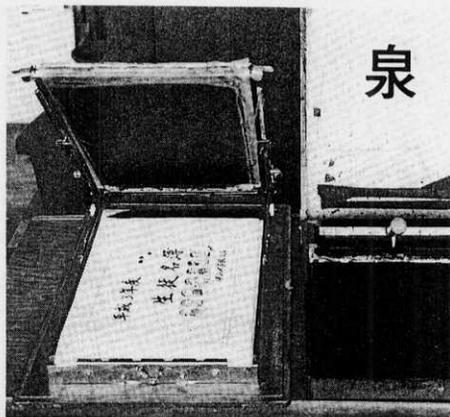
※十一月六日の愛知文化講堂

で行われる本大会に出場。

・準優勝 矢作北中学校

南中学校

泉



甲山中学校

謄写版

職員室の机に確固たる位置を占めたワープロやパソコン。学校によつては、レーザープリンターまで備えられ、情報処理から文書作成・保存を一手にこなしている。世はまさにOA時代である。

そうした中で、頑なに（そういう時代だからこそか）ガリを切り、謄写版を使って学級通信を発行されている先生がみえる

と聞く。
エジソンの発明とも言われる謄写印刷は、簡単で安価で手早くでき、実用的であったことか

・表紙写真
・表紙詩
・カット

梅園幼
梅園幼
六南小

深津 千珠子
深津 千珠子
加藤 克也

ら、戦禍を受けた活版印刷に代わつて急速に広まった。

昭和三十年頃から学芸大学では、謄写印刷技術講習が夏期講習の一つとして数年間続いたことである。さらに、教職についてからも印刷会社に出向き、技術習得に努めたという話もある。新任研でも数年前まで行われていた。

忙しい日常の教育活動の中で児童・生徒と家庭との連絡に大きな影響を与えた謄写技術は、教師にとつて必須の技術であったことがうかがわれる。



- | | |
|------------------------------|--------------------|
| * 人生に必要なことはすべて
幼稚園の砂場で学んだ | ロバート・フルガム
¥1500 |
| * 大人のための偉人伝 | 木原武一
¥ 850 |
| * ユーモア教育の方法 | 松岡 武
¥1600 |
| * 日本人の国際性 | 祖父江孝男
¥1400 |

※日本誕生 武光 誠 ¥1400

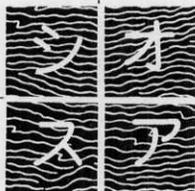
文藝春秋
発掘・発見でもたらされた史料をどのように解釈するかは、その拠り所とする物差しによって一変する。

本書は、東北の縄文文化、北九州から始まる弥生文化のほかに第三の文化の発祥地として奈良盆地をあげ、三種の文化という枠組みから、日本統一の経過を探っている。

事の当否は分からないが、最新の考古学的成果と『記紀』の研究に基づく明快な論述にいささか興奮させられた。

岡崎市内で、毎月六回もの定例探鳥会を開いている岡崎野鳥の会。岡崎で見られる鳥の仲間はずいぶん種類とかが。趣味として始めるには、他のものに比べれば楽ですよ、と熱っぽく語る織田さん。早朝のすがすがしい空気の中で探鳥会。想像しただけでも爽やかな気分。ぜひ参加してみたい。

白地に赤の日の丸がひときわ大きく見えた谷口選手のパイクトリラン。日本人マラソン選手として初の世界選手権メダル獲得のレースは、多くの人に希望と感動を与え、地道な努力の大切さを教えてくれた。間近に迫った体育大会、新人戦。第二、第三の谷口選手の出現が待たれる。



秋の空には、鰯雲がよく似合う。空高く澄んだ大気に、魚の鱗のように小さな雲片が、さざ波のように広がるさまは趣がある。秋は風・物の音のすべてが敏感に感じられ、その響きが人の心を打つのは、この爽やかな大気のせいかな。

鰯雲汝の文字みな声をもつ
天野 莫秋子

菅生川の岡崎らしい落ち着いた風景は、川岸にある石の造形によるのではないかな。石のある街を取材する中で、その様な想いを深くした。味気ない金属に対して、御影石のガードレールを配し、路面には、やはり石造りの道路標示が埋め込まれている。石をさがして岡崎を散策するのは嬉しい。